



Kさんと出会って

グループホーム花みずきスタッフ 大谷 直子

私がグループホームで働きたいと思ったのは、ヘルパーの資格を取りに行った学校で見せてもらったビデオの影響でした。

そこには介護している職員の方々の優しくて温かい対応により、認知症の方々が穏やかに生活する日常が映っていました。介護の仕事をするなら、こんな所で働きたい！と思ったのが最初でした。

私が花みずきに就職して8年と半年が過ぎました。その間にたくさんの認知症の方と時間を共にしてきました。

その中でも一番印象深かったのは、レビー小体型認知症のKさんでした。レビー小体型認知症とは、アルツハイマー型と似た症状の他に幻視や幻聴、妄想などの症状があり、身体的には小股で歩くなどパーキンソン病に似た運動障害が出てくる病気です。

元々の性格もあるのですが、Kさんは新しい職員には人見知りをされ、激しく拒絶をされる方でした。例にもれず、私も最初は激しく拒絶をされ『あっち行っとき！』『向こう行け！』と厳しい言葉を投げつけられました。Kさんは病気のため、思うように自分で動けないのでトイレへ行く時や移動の際は、職員が手を引いて誘導するのですが、それをさせてもらえるようになるまでが一苦勞でした。

顔を覚えて貰うため、そーっと近付き一緒に食事をしたり、『ちょっと！』と呼ばれると一番早く行き、飛んできました！と必死のアピールをしたり、爪を立てつねられる事もありましたが、それにも耐え頑張りました。

時間があればKさんの側に行き一緒に過ごすようになりました。そして少しずつですが受け入れてもらえるようになり、冗談を言い合ったり昔話に花を咲かせたり出来るようになりました。いたずらも大好きなKさんは、職員を呼んでおいて寝たふりをしてみたり、お風呂介助の時に洗面器でお湯をかけて来たりしていました。それも馴染みの関係が出来てきたからこそ、いたずらなのだと思うと怒る気にもならず、逆に嬉しく思うようになっていました。



Kさんは幻覚や幻聴があるため、私達には見えない誰かと良くお話をされてきました。夜勤をしていると居室から呼ばれ『はい』と入って行くと『あんたと違います』と言われ、誰かと話し始められます。

『お姉さんが窓から見える。山を登っている』と言われたり、『お兄さんがお酒ばかり飲んで』と文句を言ったり、それは全てKさんにしか見えない誰かと会話されていました。

私たちが覚えてしまうぐらい何度も話されるので、時にはこちらから『姉さん、今日も山に登りよったったで』とKさんの世界に入り込んで行くことも出来ました。Kさんは『ほんまけ、山ばかり登ってなあ、私ら、よう登らんわ』と普通に返してくれました。

ただ、目の前に誰もいないのに大きな声で喋ったり急に怒ったりする事もあったため、他の利用者さんが勘違いされトラブルになることも多く、よくケンカされていました。



面会に来られている家族の方に対しても言いたい放題のため、思わず口の前に手を持っていき『しーっ』と言うと、困っている職員を見て『あははははー』と大笑いされる事もありました。

Kさんは座っているのに疲れたら横になる、寝るのに飽きたら起きる、と言う独自の自由なスタイルで生活しておられたので、夕食の時間に熟睡されている事もよくありました。

結果、夕食を食べられず夜中にお腹がすいてしまい、真夜中に誰もいない広いホールに、たった一人でせんべいを食べる姿を何度も見る事になりました。静まり返ったホールにせんべいをかじる音がバリッと響き、ボソボソと独り言が聞こえたかと思うと『あははははー』と笑い声が響き渡っていました。誰にも止めることは出来ず、ようやくせんべいも食べ終え、しばらくして状況が把握できると『誰もおってないな、私も連れて行ってもらいましょ』と小さな声がして、それを合図にお部屋に誘導していました。

そんな自由な生活をしているKさんに、一度帯状疱疹が出来たことがありました。帯状疱疹と言えば一番に思い浮かぶのがストレスですが、あんなにやりたい放題なのに一体どこにストレスが！？と正直思いましたが、どうも本人には秘めた思いがあったようで帯状疱疹に悩まされる日々が数日続きました。



それが治るまでは痛みのせいで、いつもに増して激しく大騒ぎされたことは言うまでもありません。

思い出せば、大変だった出来事が次から次へと山のように出てくるKさんですが、残念ながら6年前、89歳のとき老衰で最期を迎えることになりました。その数年前にお花見に行った時のKさんと私のツーショットの写真には、少しでも笑っているように見えるKさんが映っています。

Kさんとは血のつながりのない他人ですが、携わっていくうちに私に不思議な感情が芽生え、亡くなられた今でもその写真は私の部屋に飾ってあります。

介護の仕事を初めてすることになった私にとって、Kさんとの出会いは衝撃的でしたが、Kさんと一緒に過ごした何年間は私にとってとても貴重な時間でした。その人の人生を知り、理解し、決して否定せず、その人の世界に入って思いをくみ取る。

その人のペースに合わせ、急がずゆっくりと、決して一人ぼっちで寂しい思いをさせない。認知症の方の介護をする上で、大切な事すべてをKさんから学んだような気がします。

他の利用者さんにも言えることですが、認知症とひとことで言っても人それぞれいろんな症状があり、その人が持っている性格や歩んできた人生によって変わってきます。

私達は、その人達に寄り添って心の不安を少しでも減らし、少しでも穏やかで楽しい日々が送れるように、生活を共にしています。

今後、Kさん以上に手ごわい人が現れるかどうかはわかりませんが、利用者の方々と一緒に貴重な時間を過ごしていきたいと思います。



グループホーム「花みずき」スタッフ・大谷さんのメッセージです。

Kさんとの出会いが、その後の大谷さんの行動を大きく変容させたのですね。素晴らしい体験でしたね。利用者の生活に寄り添う姿勢を確立しつつある大谷さんの今後の活躍が楽しみです。 ⊕

